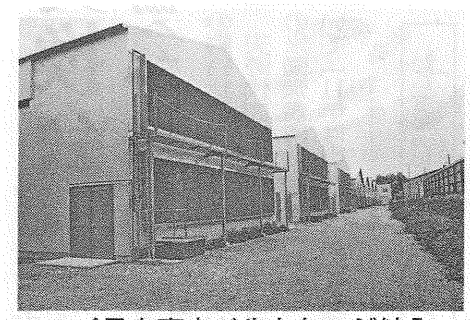
ハイテム

国内、海外とも納入伸長

カナダにセコノブ ロシアにエッグフローコントロール

㈱ハイテム（安田勝彦社長―岐阜県各務原市テクノプラザ2―10）は、二十数年にわたる直立ベルトケージの技術蓄積と納入実績を背景に、2009年から、トヨタをはじめ多くの日本企業が進出し、工業インフラの整備が進んでいる天津でハイテム直立ベルトケージの製造を開始した。



ハイテム直立ベルトケージ納入実績例（東日本地区Y農場）

同工場で製造した設備は、日本国内で納入実績が着実に増加しているが、天津工場（スターハイテム）稼働を機に開始した海外販売も、中国の先進鶏卵大手〝徳青源〟へ直立ベルトケージを納入したほか、最近ではカナダへのセコノブ（鶏舎廃熱利用養乾システム）、ロシアの200万羽農場向けにエッグフローコントロールを受注するなど、実績を挙げつつある。

これらに対応するため、天津工場では今年5月に製造能力を倍増させ、年間、一直300万羽、二直600万羽設備の製造体制を確立した。

同社では、国内市場を基礎とし、設備性能、経営利益重視（同社は設備が生むランニングコストの差を『第2の利益』と説明している）の生産者を中心に、量ではなく質を大切に、海外の生産者との関係も深めていきたいとしている。

鶏鳴新聞

2012.12.15